

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の確認を職員一丸となって共有することに努め実践している。	理念が玄関、台所兼食堂に掲げられている。台所で申し送りや調理等の作業中に理念が目に入り常に意識できるようになっている。長年勤務している職員が多く、理念を十分に理解し支援につなげている。理念を共通理解ができるように会議で唱和したり、理念に外れていると思われるような時にはお互いにその都度注意し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所および近隣の皆さんに、交流の機会を作ってもらよう種々の行事を計画し実践している。	毎月27日に地域の高齢者中心に「お茶のみ会」が継続して行われている。毎月20名位の参加者があり、時には歌や踊りのボランティアが参加している。区費の支払いをし区のご好意でゴミ収集も一般家庭と同じ扱いをさせていただいている。紙芝居や音楽、絵手紙など幅広いボランティアの訪問がある。近所の方からの野菜や果物の差し入れが沢山あり、利用者と一緒に食べたり保存用にしている。福祉大学生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんとの交流の場で認知症の人と交流を持ち、理解してもらえよう、機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見を聞くことができ、運営上、参考にしている。	利用者、家族、区長、隣組代表、民生委員、消防団代表、警察署員、地域包括支援センター職員で構成され定期的に開催している。今年度2月、開催予定日が大雪となり、3月の終わりに延期し開催することとなった。地区の支えあいマップにホームの利用者も入れていただくよう頼んでおり、利用者に対してどのような対応したら良いのか逆に提案してほしいとの要望を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者和との連絡は常に取れている。協力していただいている。	新年度介護保険制度の改正に伴う説明を役場へ出向き受けている。運営や防災機器の相談をしたり指導を受けている。介護保険の更新申請や区分申請を家族と相談し代行している。利用者は隣市や村の住民でそれぞれの市役所や役場から調査に見え利用者の状況を知らせている。利用申し込み者の紹介等もいただき関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていない。	身体拘束をしないケアを職員は理解し毎日の介護に当たっている。貧血により転倒の心配があり利用者が移動する度に足元に物が当たらないように退けたり一緒に行動していた。大腿骨骨折で退院した利用者の自覚がないため車椅子からずり落ちる危険性があることから家族とも相談し車椅子の時だけ腰を固定することができる。玄関は鍵をかけることなく自由に入りができる。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止には職員と協力し、穏やかな介護に努めるよう努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に感ずる制度の研修をし、共通に理解し合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設け、家族の意見要望を聞くようにしている。	家族会が毎月行われている。その中で、小旅行、高原コンサート、新年会、クリスマス等の行事と一緒にしている。子どもや孫の参加があり、利用者と家族の繋がりは途切れることがない。家族が訪問した時には直接要望等を伺っている。毎月請求書を送るときに一人ひとりの近況報告を書き留め家族との意思疎通に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月に1度の職員会に職員の意見を交換しあい反映させている。	毎朝の申し送りと月1回の定例会がある。外部研修を受けた内容を印刷し職員に渡し伝達研修としている。同世代の職員で勤務も長いのでお互い利用者のことを中心に意見交換ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多くもてるように参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会を多く作るためと行事の参加も計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話す機会を多く作ることに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の内容の説明と、利用者の様子をくまなく伝えるなど家族とのコミュニケーションを多くとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めに努め家族と連携をとりあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なごやかな中で暮らしていくよう穏やかな生活を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切にしながら全ての面で橋渡しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人がいるときは、その方の話題を多く知ったり語りかけたりと思い出話をく。	住んでいたご近所の方やデイサービス利用の時の友人、兄弟などの来訪が常にある。友人や兄弟も高齢で利用者のご子息の運転する車で送迎していただき関係を継続している。お正月やお盆の行事、お墓参りに日帰りで帰宅する利用者もいる。祝日には国旗を玄関に掲げ昔ながらの「旗日」として利用者とともに祝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	このごろ互いに話しをしている場面にあう。そのときのことを、聞かせてもらうこともある。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々家族から便りをいただくこともあり、いつでも相談にのれるようになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前家族から話をきいたり入所後も家族や知人の訪問時に話を聞かせてもらい本人の希望を得るようにしている。	利用者や家族から生活歴を聞いているがお茶のみに参加する方から、情報を得ることもある。口頭で表現できない方にはしぐさで判断している。朝出勤した時に利用者一人ひとりに挨拶をすることで利用者の体調が分かり「〇〇さん今日は元気ですね」と声かけすることもあるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から伺ったり、入所前の施設からの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の記録、ミーティング等で状況の把握に努めている。 ・1人ひとり担当者をきめより良い気づきができるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングや記録から状況を把握し、必要な事は即対応するようにしている。	利用者や家族の要望を聞き計画作成担当者が作成している。利用者6名のケアプランは毎日ミーティングでプランに沿って評価や気づきを話しあい、記録に残して定期的な見直しへつなげている。職員は利用者のケアプランを理解している。家族には変更がある度に説明し確認していただいている。ホームからプランに沿って家族へ要望を伝えることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の暮らしの中で、気づいた事や行った事を記録し、誰でもその人の事がわかるようになっている。問題点はそのつど話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が一番良いと思われる事を話し合いながら対応している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の際など車椅子を押して楽しい外出を心がけている。 災害時の避難を頼んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をとり安心を得ている。	かかりつけ医の通院は家族対応としている。緊急の場合や家族の都合がつかない時は管理者が付き添い情報を職員、家族へ知らせている。協力医による往診の対象者が2名ほどいる。今年から訪問看護師が週1回訪ずれ、2時間位掛けてバイタルチェックや利用者の話を聞いている。「健康面、医療面、安全面」について心配はないと家族からも信頼の声が寄せられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	家族の意向や本人の気持ちを尊重し支援に取り組んでいる。利用時の契約書を取り交わす時に確認している。協力医による往診が可能で、終末期や看取りに係わる状態になった時には協力医への主治医変更をお願いし家族と職員との話し合いの結果を主治医に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を受けた者もいる。 実技研修を受け復命している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制を築いている。	広域消防署へ計画を出し消防署員参加の下行っている。平成26年8月に居室、居間、食堂にスプリンクラーが取り付けられた。居室入口に名前と歩行の状態等を記入した名札が吊るしてあり救援者に分かる仕組みとなっている。地域の方をお願いする災害時の援助方法を段取りし文書で区長にお願いした。3月の大停電時には職員がダルマストーブを持ち寄り暖をとり対処した。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの尊重とプライバシーを損ねない対応をしている。	利用者は男性1名女性5名で、女性は今の苗字より旧姓を覚えている方が多いので名前に「さん」付けて呼んでいる。地域の方が参加するお茶会の時、参加者にホームでの個人情報に関わることは外で話さないようにお願いしている。従来作成していた「ふきんと便り」も写真が掲載されるので個人情報に配慮し一人ひとりの近況報告に変更した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞いたり自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムに沿って生活している。1人ひとりの身体的なリズムは個人に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけの折など、身だしなみの相談を受けた時、共に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理や行事食を大切に考え思い出話など交え、準備をしたりしていただいている。	10時のお茶飲みの後、廊下でバイタルチェックや日課のリハビリ体操をゆっくり時間を掛け行っている。食器拭き等手伝っていただいている。医師の指示で水分控えめという方もいるが職員の手料理を1口大に切ったり工夫して全員が同じものを食べている。毎日規則正しく食べていることで健康面が回復した利用者もいる。おやきややしょうまなど皆で作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりにあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週3日、入れ歯洗浄剤を使って滅菌消毒を実施している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄習慣を活かし、トイレ等で排泄の支援をしている。	夜間はオムツで昼間はリハビリパンツの方、自立していても本人の安心のためにリハビリパンツを使用している方等、一人ひとりに対応している。「トイレに行きたい」、「トイレ」の一言で職員が付き添ったり、立ち上がる動作をサインとトイレでの排泄につなげている。サインがあっても嫌がる方には他の目的を探しトイレへと誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい食事時間を守り体調に合わせた薬の工夫をして便秘の予防と対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた入浴日にそって入浴を実施している。個々の時間帯は決まっていない。	一人介助、二人介助で3日に1回の入浴を予定している。車椅子の方は上がるまで二人介助で行っている。利用者によっては熱いお風呂にゆっくりと入る方もいるので見守りは必ずしている。近くの温泉施設へ年2回、家族会を兼ね出掛けて行き温泉を楽しんでいる。菖蒲湯や冬至のゆず湯など、季節に合わせたお風呂も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間を取り、その時々状況に応じて、休息したり安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が共通認識を持って服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を聞かせていただきその話題をもとに、話を広げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけることはたくさんやっている。	毎日行う日課の中に散歩があり利用者の健康維持のために行っている。散歩に出れないときは日向ぼっこをしている。外出する時は全員が車椅子対応となる。お花見、バラ公園、菊花展等にも出かけている。昨年の4月には大型バスを借り切り地域の方も参加し善光寺参りに行って来た。ファミリーレストランやラーメン店での外食も人気がある。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は全くしていただかない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が、本人の希望にそった対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間であるが皆、協力し合って使用し、居心地のよい共用空間となるよう努めている。	玄関を入ると大きなお内裏様とお雛様が飾られていた。民家改修のホームで利用者が違和感なく生活を営まれている。居間には書き初めや善光寺参りのスナップ写真が飾られていた。ソファも置かれ日中人の気配を感じながら休まれる利用者や台所で職員とおしゃべりする方、居間で新聞を読む方等、自由な空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる居場所は、各自の部屋以外のソファを使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切な人の思い出や、好きな写真など持ってきて居心地よく過ごせるよう工夫している。	備え付けのベッドの他に元々飾られていた掛軸が架かった居室やミニタンスや洋服が並べられた居室が見られた。壁にカレンダーや家族の写真を飾られている方もいた。スプリンクラー工事の時に天井を白くしたので居室がより明るく感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送れているように思う。		